

- 価値ある同窓会を目指して会長：藪田和夫氏
- 電気電子情報工学科近況
- 受賞
- ハイテクリサーチセンター開設
- 電気電子情報工学科教員紹介 山口栄雄助教授
- 叙勲受賞
- 会員の近況・思い出
- 神大の将来
- 前田さんを偲んで

神奈川大学
電気電子情報工学科同窓会
会報

価値ある同窓会を目指して

会長 藪田和夫（昭和二十七年卒）
 一昨年急逝された内形会長の後を継いで、この大役をお引き受けしてから、早いもので平成十六年度の総会を迎えることとなりました。顧みますと、電気工学科同窓会は、長い空白の時代がありました。心ある先生、諸先輩のご努力により、平成四年より着実な運営が重ねられ、成果を挙げてきました。茲に、中心になって推進してこられた故長谷川先生（初代会長）、小島会長（二代会長）を始め多くの諸先輩に感謝申し上げる次第です。また、本同窓会も平成十三年、神奈川大学・電気電子情報工学科同窓会と名称変更され、近年、先生方の学年幹事も充実されました。

平成十六年度総会を迎えるにあたり先般役員会が開催され、総会の運営や、同窓会活性化について話し合われました。その結果、卒業年次毎に自薦他薦を問わず核となる方をお願いし、その方が中心となって多数の同窓生の参画を推進する。学内研究内容の紹介や、同窓生相互の交流をも含めた、コミュニケーション強化のため、専用

平成16年9月 No.12
 〒221-8686
 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
 神奈川大学
 電気電子情報工学科同窓会
 TEL:045-481-5661 (大学代表)
 FAX:045-491-7915 (大学代表)
 E-mail: dousoukai@or.tv
 http://www.dousoukai.or.tv



Eメールを創設する。学生の就職活動にも資するため皆様の企業の紹介をお願いする。併せて会員名簿の整備も進める、等々を実行する事と致しました。このようにして会員の皆様が進んで参画する、価値ある同窓会を目指した一層の充実発展をさせてゆきたいと思っております。

どうか皆様の積極的なご意見、ご参画をお願いいたします。

本年度の同窓会総会・懇親会は十一月二十八日（日）に開催いたします。

受賞

○新中新「2001 Technical Committee Prize Paper Award, IEEE Industry Application Society, 2002年10月」
 ○渡辺良男、照明学会賞（研究業績賞）、日本照明学会、2003年5月

ハイテク・リサーチ・センター開設
 5年間に最大5億円の支援
 神奈川大学工学部電気電子情報工学科

が、国際社会の要求水準を満たしているかどうかを、外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する機構です。2004年5月現在、「電気電子情報通信およびその関連分野」での認定校は国立大学（5）、私立大学（1）、高専（2）となっております。現在、実地審査に向けた資料整備を急いでいるところですが、本プログラムが認定されれば、比較的早期の認定校の1つとなります。

○新任スタッフ
 山口智宏先生（2004年佐賀大学大学院工学系研究科 生体機能システム制御工学専攻修了 博士（工学））が助手として採用され渡辺研究室に配属、電気電子情報工学実験2を担当されます。

電気電子情報工学科近況

○本学科工学専門プログラムのJABEE審査受審について
 予て改善・整備しておりました本学科の教育プログラム「電気電子情報工学専門プログラム」は、本年十一月七日から九日にわたり、「日本技術者教育認定機構（JABEE）」の現地審査を受ける運びとなりました。JABEEとは、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、国際社会の要求水準を満たしているかどうかを、外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する機構です。2004年5月現在、「電気電子情報通信およびその関連分野」での認定校は国立大学（5）、私立大学（1）、高専（2）となっております。現在、実地審査に向けた資料整備を急いでいるところですが、本プログラムが認定されれば、比較的早期の認定校の1つとなります。

専攻では、2004年度文部科学省私立大学研究高度化推進事業に、ハイテク・リサーチ・センター研究プロジェクトの設置申請を行い、研究題目として「チップ上に広がる人間環境系を支える知能集積技術」が採択され、2004年4月に発足いたしました。

二十一世紀の高度情報化社会では、電脳空間あるいはサイバー世界とも呼ばれている人工的な人間環境系が成熟してゆくことが予測されています。将来、この人工的な人間環境系に、経済活動や文化活動などの人間のさまざまな活動が投影されることで、人間の住む環境、社会および文化の利便性、安全性が向上し、人間のリアルな生活の質がより豊かなものになると期待されています。本研究プロジェクトは、このような期待にこたえることを目的とし、微細な高集積化インテリジェント機能チップ平面上に人間の諸活動を投影して人工的な人間環境系を構築するための「知能集積基盤技術」をソフトとハードの両面から研究・開発し、それらを集約することを目指したものです。本研究プロジェクトが立ち上がったから日も浅いのですが、研究装置が整備されて研究環境も整い、研究員一同、すばらしい成果をあげ、社会に貢献できるよう、日夜、精力的に研究に取り組んでいます。請う、ご期待あれ！

本研究プロジェクトは2006年2月26日公開シンポジウムを企画しています。卒業生の皆様の積極的な参加を歓迎致します。

新任教員紹介 山口栄雄 助教授

世の大学の学科名称から、「電気」の二文字がほとんど消えている実状があります。もちろん、「情報」という分野の台頭により圧されていることも大きな理由ですが、それ以上に、「電気」のもつ意味合いが変わってきたのだらうと思います。「電気」から「電子」が生まれ、さらに、「情報」、「知能」など、世の中の仕組み、とくに、利便性を表現する仕組みを象徴する表現が全面に押し出されているようになったととらえることができます。従来の電力の範疇では、固定された、大型の大電力発電が主流でしたが、今では、電子系と情報系の発展により、モバイル機器、とりわけ、装着可能な小型のウェアラブル機器が発達するに従い、分散型、低電力電源が必要とされ、今後主流になっていくでしょう。さて、この小型で低電力動作の機器の実現が可能になったのは、当然ながら、半導体エレクトロニクスによる微細化・高集積化が果たす役割が最も大きいことはいまでもありません。しかし、この高集積化および高密度・高速の信号処理にもなう、熱の発生が大きな問題ともなっています。この問題を克服する一つの方向として、機器自体のさらなる低電力動作が王道なのですが、その他に、放熱や冷却といった外部からの熱対策があります。このように、集積回路の発達にともない、熱を強く意識する機会が多くなってきました。ところが、この熱というものはすぐ厄介で、固体中では格子振動で伝わり、液体や空気中では対流や熱伝達で伝わり、真空中でも赤外線に形を変えて伝わり、しかも、自然界のあらゆるエネルギーの最終形態が熱なのです。したがっ

平成14年度神奈川大学電気電子情報工学科同窓会収支(案)
平成14年6月1日から平成15年5月31日まで

| 収 入 | | 支 出 | |
|--|---------|--------------|---------|
| 会費 (終身会費×18人) (年会費×185人) (その他×7人) | 945000 | 通信費 | 681540 |
| 預金利息(4月1日) | 200 | 印刷費 | 205548 |
| 平成13年懇親会黒字 | 10000 | 卒業生記念品(190個) | 149898 |
| 平成13年繰越金 | 5076686 | 会費 | 1330 |
| 収入合計 | 6031886 | DPE(懇親会/会報用) | 1848 |
| | | 事務用品 | 0 |
| | | 次年度繰越金 | 4991722 |
| | | 支出合計 | 6031886 |
| | | 収入合計-支出合計 | 0 |

平成15年度神奈川大学電気電子情報工学科同窓会収支(案)
平成15年6月1日から平成16年5月31日まで

| 収 入 | | 支 出 | |
|---|---------|--------------|---------|
| 会費 (終身会費×11人) (年会費×201人) (その他×14人) | 794000 | 通信費 | 680000 |
| 預金利息(4月1日) | 200 | 印刷費 | 210000 |
| 平成14年懇親会黒字 | 35000 | 卒業生記念品(190個) | 2000 |
| 平成14年繰越金 | 4991722 | 会費 | 2000 |
| 収入合計 | 5820922 | DPE(懇親会/会報用) | 2000 |
| | | 事務用品 | 2000 |
| | | 同窓会旗更新作成 | 47250 |
| | | 次年度繰越金 | 4877672 |
| | | 支出合計 | 5820922 |
| | | 収入合計-支出合計 | 0 |

て、これまで、エレクトロニクスに携わってきた研究者は、この熱をやっかいなものとしてのみとらえてきたわけですが、熱を避けることは不可避です。むしろ、地表に無尽蔵に存在するこの熱エネルギーを有効に利用できれば、いろいろな面から一番理想的であると考えています。そういうわけで、半導体の研究を手がけながら、熱を回避するのではなく、それを積極的に利用するという姿勢を取った、全く新しい「熱を積極的に利用したエレクトロニクス」、すなわち、「サーモアウェアエレクトロニクス」を提唱し、現在、半導体薄膜を利用し

た応用を進めています。具体的には、古くから知られている熱電変換現象を利用した応用です。地球の地表の平均温度は290Kですから、このあたりの熱エネルギーが最もたくさん地球上には存在していることになりました。ただ、希薄なため、それで大電力を生み出すことはできません。しかし、究極的に低電力で動作する機器の開発が進められている現状では、将来的には十分、この希薄な熱エネルギーを利用することは可能であるとみています。熱の品質を追求する、すなわち、必要な場所で、必要な機器に、必要な量のエネルギーを熱から

生み出すことが、真に地球環境を考えた研究、さらには教育につながっていくと思えます。本来、日本人がもっていた、無駄に見えるものも他に利用するという、本当の意味での効率的な有効利用をこの研究の先に見据えています。

叙勲受賞

瑞寶雙光章 鳥海 則 昌殿

平成十五年十一月三日

専門学校・大学当時の様々な思い出が大変懐かしくよみがえって来ます。末筆ながら母校の一層の繁栄を祈念致します。「昭和二十八年年度卒鳥海則昌」

会員の近況・思い出

○神奈川大電気工学科を卒業して水道公務員になって30年を経過しました。先日同窓会の役員諸先輩との会合に参加したのがきっかけで会報に記事をとの話となりました。私のつまらない近況報告を書いて記事に代えさせていただきます。水道界でも多様な電気関連業務があります。プラントの運転管理、設計工事等です。仕事で電気屋を生かせることはしばしばです。水道の水圧や管路の損失、調整池の容量などは電気回路におきかえて現象をイメージすることができ、設備自体が電気やコンピュータの制御が主役となっています。ただ私自身がまだまだ研修側で、長い充電期間のままのような気がしています。余すところあと10年となり有効な放電ができるように考えて、公私混同となっている頭の中を整理していきたいと思っています。厳し

い社会構造となっておりますが、この同窓会が人間関係の連帯でつながっていくことを願っています。

「昭和50年卒小島勇 メール：ttt@sehd2x@nx7.ttcn.ne.jp」

○大学時代の日々がまるで昨日の事のように思い出されるのに、今回、このような近況報告を書く機会をいただき、卒業してからの年数を改めて数えてみると、十数年も経っていることに今さらながら気が付き、時間の過ぎ行く早さを先ず実感してしまいました。さて、私は、電気工学科出身ということもあって、現在まで、ずっと電力の仕事に携わっています。そして、その中でも、私は、入社してから今日まで、地中送電という部門の仕事をしています。地中送電線の場合、文字通り地中にある設備なものですから、鉄塔や電柱の架空送電線などとは異なり、一般の人の目に触れる機会がまず無いと思えますので、「地中送電」の仕事と言っても、皆様にとっては、どういうものか全く想像し難いものかもしれません。そういう私自身も、学生時代に専門的に勉強をしたわけでもありませんでしたので、就職して初めて知ったようなものです。入社して初めて私が配属された職場は、275kV以上の超高压地中送電線の建設だけを専門に行っているところで、そこでは、ケーブルという電気分野の工事だけでなく、それを収容するためのトンネル工事の規模が大きく、一つの地中送電線が出来上がるには、ルート調査から設計、そして工事と、すべてが何年もの長期にわたって行われており、一つのものが造られるのは本当に多くの人たちが携わっていること

を目的当たりになりました。また、そういうスケールの大きさは反対に、電氣的な面においては、数十ミクロンレベルのケーブル絶縁体の異物管理も必要とされ、設備の繊細な部分にも触れることができ、今では大変貴重な経験であったと思えます。現在、私は、建設専門の職場を離れ、既存の設備を保守する職場に勤務しています。今度は、実際に電気が流れ、使用されている設備を相手にする立場となり、いままらながらですが、電気と様々な産業との係わり、あるいは日常生活での電気を再認識する機会ともなっており、設備を守ることの重要性を痛感しています。また、そういう気持ちを通し、電気だけに係わらず、自分自身の毎日の生活にあたり前のように係わっている多くのものに、ありがたみ、感謝の気持ちを持てるようになってきたようにも感じています。入社当時は勿論、いまだに設備について知らないことも多く、自分の知識の無さ、未熟さを反省することもしばしばです。そんな中で、やはり思うのは、職場をはじめとする周囲の人達に恵まれてきたのだなということです。初めて経験すること、あるいは苦手意識のあるものにぶつかった時は、誰でも不安を感じるものだと思います。仕事上でもそんなことがあると憂鬱になってしまうのですが、そんな時に、私は、職場の先輩が何気なく言った「新しいことが勉強できていいね」という一言を思い出します。成長できるチャンスと思えというこの一言で、気持ちが楽になり前向きな気持ちになれ、私にとっては、とても印象深い言葉となっています。これから

さを感じることもあるでしょうが、そういう時はこの言葉を思い出して前向きに、また、いつになっても好奇心を持って、常に向上心を忘れずにありたいものだと思います。「平成三年度卒小宅克子」

神大の将来

同窓会副会長 片山 穰昭和四十一年卒業入学通知を貰い、学生割引にて和歌山から阪和線で天王寺に出て、環状線に乗り継ぎ、当時大阪駅一番奥のホーム(今の二番線あたり)から出発していた急行「六甲」に乗り、右も左も分からない横浜に来て、卒業後も仕事の関係で横浜に住み着いた為、早40年近くとなりました。今では「関西の人」から完全に「関東の人」になり、昨年、縁あって神大電気電子情報工学科同窓会の学外役員(副会長)に推薦され、今日に至っております。神大の卒業後を振り返って見ますと、色々なことが走馬灯のように思い出されます。今になって、一番残念に思いますのが、地元にながら同窓の方々に何も出来なかつた事です。神大に行く機会が無かつた事、毎日の仕事が大変忙しかつた事等、色々な原因が考えられますが、当時200名近くいた同期の方々が、3年生になった時点で専門のゼミに分かれ、なかなか一同に会する機会が少なくなつたこともあげられます。従って、既に60歳を越え、自営業の方は別として、サラリーマンを選んだ方々は定年を迎え、「第二の人生」を過ごされている状況を聞くにつけ、何とか今一度お会い出来ないものかと願っている次第です。先日、今年度の年次総会打合せの為に、穴田教授の研究室を訪問し、学校の現状を知

ることが出来ました。

学校そのものの評価も然ることながら、大きな課題は、就職です。現在大きな社会問題にもなっております就職活動は、今では各人に委ねられ、自己PRの必要性と本人が就職に興味を示さなければ、何時までたっても職にありつけないという事であります。

昔のように、学生課に企業側が、就職依頼に来ていた時と異なり、現在では、殆どの企業がインターネットHPの応募に変化してきております。従って、学校側が直接企業にお願いする機会が非常に少なくなつて来ております。そのような訳で、OBの方々の諸活動が、卒業生の採用に大きく影響を及ぼします。お忙しいと思いますが、後輩の将来を願ひ「現況を語り合う」十一月二十八日(日)に開催されます「平成十六年次総会並びに同窓会」へのご出席をお願い致します。

前田教務技術職員を偲んで

平成16年度の電気工学科同窓会準備会の議事進行中のことでした。ふつと議事が淀んだとき司会役の穴田先生から「前田さんがお亡くなりました」との話がありました。今夏急死されたとの事です。藪田会長を始め会議参加者からほぼ同時に「えっ！うそ・・・」との声が上がりました。それは、昨年のHome Coming Dayに開催されたOB会の席の事です。抽選会で、確か一等賞を引き当てられた事を紹介され「ハニカミながらあの小柄な体を更に小さくして嬉しさを隠している様子」を

皆んな思い出したからではないでしょうか・・・前田さんは私の在学当時(昭和30年後半から40年当初)は、電気回路を担当しておられた木下先生の助手で、クラブ活動では高電圧研究会の指導員であつたと思ひます。電気回路実験やそのレポートについてご指導を頂きました。思い出の一つを申し上げますと、本館横の地下1Fの高圧実験室で「送電線の碍子汚損時の逆閃絡特性」実験をする為、10吋碍子のリーケイジパスを計算してパス等価な模擬碍子を作るべくベーク棒を機械工学科の旋盤(同一B1に有つた)を借りて削つておりました。機械実験で旋盤の使い方は一通り実体験しました。自分一人で操作する事は初めてでありましたが、何とか数個を残して模擬碍子を作る事が出来ました。そこで、残りの数個を後輩に作らせることとして、手順を自分なり教え、3個出来た所では後任せて実験室に戻つて・・・暫く経つて・・・鈍く腹に響く異様な音がした直後、後輩が飛んできて「先輩大変だ!!!」

「直ちに行つてみると、バイトは折れ回転部分が破損してました。怪我は無かつたのですが・・・息ついて・・・さて、機械工学科の先生にどう謝るか・・・そこで、前田さんの出番、どの様に話しを付けてくれたのか判りませんが・・・数時間後(その待つ時間の長かつた事)、何時ものニコニコ顔で我々の待つ実験室に來られ「怪我は無かつたね!」と念を押してから、「実験装置を自作する事は非常にヨロシイ」と先ず着めて頂き、一同「ほっと!!」胸を撫で下ろしました。そして「この失敗は良い経験ですから、今後とも失敗を恐れな

前田教務技術職員を偲ぶ

い様に」加えて、「機械器具はお金で買えるが、体験・経験はその機会を得た者だけのお金で買えない貴重な財産だ!」だと言つて下さいました。あの時の前田さんの言葉は実に威厳があり、心に沁みる一場面でした。約40年経つた今でも昨日の出来事の様に出させられます。今夏は猛暑の連続で体力も衰弱していたのでは・・・と拝察します。思い出の一端を書かせて頂き前田さんのお悔やみとさせて頂きます。「昭和41年卒 岡圭介」

昨年ホームカミングデーに久々にお会いして、昔話に旧懐を暖めまだまだお互いに健康でがんばりましょうと言つて分かれたのが最後になつたのです。前田さんの印象は一言で言えば「律儀・真面目」の感じに盡きる方でした。私が横専二年の時、電気実験の科目が入つて來た昭和二十三年が前田さんとの始めての出会いだったと思ひます。島田満潮さんも一緒に居ました。担当教授は上条先生だったと思ひます。新



制大学に編入して卒業までの四年間、卒業後神奈川県庁に勤めながら夜学の短大電気工学科の実習を、木下隆博先生のもとに前田助手のお手伝いを約二年間続けました。前田助手は学生達の電気実験の細かい指導、提出されたきたレポートの採点簿を夜遅くまで真剣にされていたことを想ひ出します。私の勤めもやがて転勤で神大夜間に通勤出来なくなり疎遠になり、やがて五十年近くなりましたが、年賀状だけはかかさず頂きお互いの元気さは確かめ合つていました。正に律儀そのもののお人柄を現したお付き合いでした。前田助手を偲ぶ原稿が何時の間にか、私自身の昔を偲ぶ文になつてしまいました。「前田さん安らかにお休みなさい。御冥福をお祈り致します」と言う言葉で結びます。「昭和27年卒 高島重雄」

訃 報 謹んでお悔み申し上げます。

○阿部正英先生がご病気で平成16年2月18日にお亡くなりました。阿部先生は昭和46年から12年間奉職され、電波工学などを担当されておりました。

○前田良夫教務技術職員平成16年7月18日にお亡くなりました。前田さんは昭和22年から44年間奉職され、強電の実験を担当されておりました。

- 佐藤 審也殿 (昭和16年卒)
- 貞包 克己殿 (昭和17年卒)
- 津久井 芳郎殿 (昭和20年卒)
- 小間 太七殿 (昭和25年卒)
- 浅古 仁殿 (昭和29年卒)
- 一ノ関 主計殿 (昭和31年卒)
- 吉成 弘殿 (昭和38年卒)
- 金子 暹殿 (昭和39年卒)
- 阿字 征夫殿 (昭和39年卒)